

加美町 協働のまちづくり推進に関する指針

KAMIKATSU Guidelines

■ ■ かみ活のススメ ■ ■



近年、人口減少・少子高齢化などによりさまざまな分野で担い手不足と特定の人への役割の集中が加速化しています。多様化、深刻化する地域課題を、それぞれの地区や組織だけで解決するのは難しくなっているのが現状です。

さまざまな属性の個人や団体が関わる「協働のまちづくり」を進めることで、それぞれの特性や得意分野を生かして協力し合いながら乗り越えていくことができ、新しい可能性や選択肢が広がります。

このように、

さまざまな団体や個人が協力し合いながら、自分たちが住みよく、安心して暮らせるまちづくりを行うための活動を「かみ活」と

定めます。

「かみ活」が町全体に広がり、多くの町民が参画することで、「協働のまちづくりの推進」につながると位置づけ、必要な取り組みを示していきます。



1. かみ活の特性

かみ活を理解し、実現するにあたって、重要な特性は次の3点です。

1. 成長する

2. さまざまな人が関わる

3. 種類や数が豊富



木が成長するようにかみ活が育ち、多くのかみ活の木が育った森は豊かになります。そして多様な担い手が、各自のできることを協力し合いながら木や森を育くむ。それが、かみ活のイメージです。

3. かみ活の原則



かみ活の原則は、次の5点です。さまざまな立場の人が協力し合ってまちづくりを行うとき、お互いにこの原則を確認しておくことで、スムーズで充実した関係を築くことができます。

想い 想いの重なりを大切に
inspiration

想いの重なりは全ての始まりであり、活動の中で何度も立ち返るべき原点です。

共有 めざす目的の共有
share

共通の目的の達成をめざすことで、より強く有効に協力し合うことができます。

尊重 お互いの尊重
respect

お互いの意見や立場を尊重し、みんなの利益につながる関係を築くことが大切です。

理解 相互理解
partnership

対等な目線で話し合いを重ね、お互いを理解し合う中で、役割も明確になり、主体性が生まれます。

多様性 さまざまな人の関わり
diversity

さまざまな人が関わり協力し合うことが、新しい可能性や選択肢を広げます。

4. かみ活の担い手



かみ活の担い手には、かみ活の木を成長させる「プレーヤー」と、その活動を支援する「サポーター」がいます。

プレーヤー 町民、地域活動団体、市民活動団体、公益法人、経済・産業団体、事業者等、教育機関、学識者等、学生、行政

サポーター 共感支援者、中間支援組織、行政

5. かみ活の推進



かみ活を活発に成長させていくための推進のしくみとして、以下の6点が必要です。

情報

場・機会

つながり

学び

達成感

活動資金

2. かみ活の成長

最初はできる範囲で小さく始まるかみ活も、みんなの関わりによって次第に大きく成長します。

かみ活の芽生え

モヤモヤした課題意識や、まちや暮らしを良くしたいという想いの重なりから共通の目的が生まれ、その達成をめざしてかみ活が始まります。

つまづき

- ・課題意識やまちを良くしたいという想いはあっても、どう行動すればいいかわからない。
- ・やりたいことがあっても仲間が見つけれられない。

のびる

- ・モヤモヤした想いを気軽に話しあい、共有・共感し合う場づくり。
- ・さまざまな人と普段からゆるやかなつながりや交流がある、やわらかい雰囲気。
- ・「やってみたい」ことを本音で話し合える機会づくり。

かみ活の育ち

みんなで話し合う中で「やってみよう」は具体的な「活動」に成長。それぞれ自分にできることで協力し合いながら活動を行います。

つまづき

- ・活動を進めるための方法や資金などの情報が手に入らない。
- ・役割分担がうまくいかず、特定の人に役割がたよる。
- ・メンバーの力をうまく発揮できない。
- ・協力者をどう見つけていいかわからない。

のびる

- ・参考になる取組みや仲間づくり、資金など、活動に有用な情報の収集。
- ・特定の人だけではなくみんなで話し合い、考えを共有し、納得いく決定を行う。
- ・お互いのできることを理解し尊重し合う。
- ・活動を発信し、共感を得ることができる場づくり。

かみ活の実り

みんなで活動の成果を共有し、達成感や充実感を味わうことで、さらに活動がつながっていきます。

つまづき

- ・内容がマンネリになり、想いが薄れる。
- ・達成感が感じられない。
- ・仲間や参加者が少なくなっていく。

のびる

- ・成果の評価と共有、次の計画への反映。
- ・達成感や充実感のメンバー間での共有。
- ・活動を改善しながら進めていくための学び合い。

かみ活の継承

さまざまな理由でかみ活にも終わりが来ます。木があった場所に陽が当たることで、新しい芽が芽生えることも。成果を引き継ぎ、次へつなげます。

つまづき

- ・メンバーが重い負担を感じながら、無理をして続けている。
- ・後継者が見当たらない。
- ・活動の成果が次に引き継がれない。

のびる

- ・本来の目的と活動の現状を照らし合わせた冷静な将来の検討。
- ・活動終了の決定は、丁寧な話し合いとメンバーの納得の上で行う。
- ・活動の後継者育成。
- ・さまざまなかみ活の成果を広く収集し、活用できるよう記録に残していく。

もっとこうならいいのに…、あれが大変…などの想い。

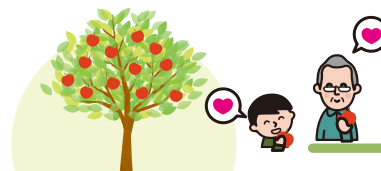


かみ活の芽生え



かみ活の育ち

水やり、草取り、風よけ、剪定など、それぞれができることで育てていく。



かみ活の実り

おいしい！という想いは、次に向かう希望になる。



かみ活の継承

枯れて落ちた葉や種は、次の芽の糧に。